

～ 地域医療支援病院としての役割を意識して地域医療の連携を深める ～

## さいたま市民医療センターだより

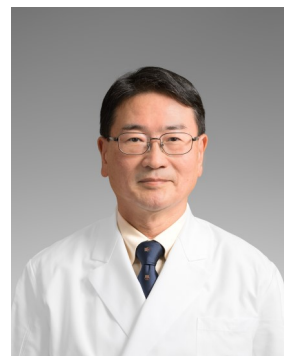
### ポストコロナ時代を迎えるにあたって

日頃、さいたま市民医療センターをご支援いただき誠にありがとうございます。

さて、ご存じのように5月8日から新型コロナウイルス感染症(以後コロナと略します)の位置づけが2類から5類感染症に変更となりました。

振り返ってみますと2020年以降コロナ診療に明け暮れた3年間でした。当院は埼玉県重点医療機関に指定され、2020年のアウトブレイク当初から積極的にコロナの患者さんを受け入れてきました。

一方で、コロナの患者さんを受け入れるためには看護師をはじめとする人的資源や多くの医療資源を注力する必要があるため、コロナ以外の診療を縮小せざるを得なくなりました。



院長 百村 伸一

#### 目次:

百村伸一院長	1
カテーテルアブレーション紹介	2-3
私たちのチームメイト	3

しかしながら当院の救急搬送はむしろ増加し、2021年には5406台、2022年には6976台と過去最高となりました。発熱患者さんを受け入れる医療機関が限られていたためと思われるが、医療資源が決して十分とは言えない中で職員が力を合わせた結果、このような実績を残すことができました。

さて、5類感染症へと指定変更を機にさいたま市民医療センターとしましては本来の地域の病院としての機能をまず充実させてゆく必要があります。勿論5類になったからと言って決してコロナの感染力が弱まったわけでもありませんし、中には重症化する患者さんも出てきます。私たちさいたま市民医療センターは今後も中等症の患者さんを中心にコロナ患者を受け入れてゆく方針ですがその一方でコロナ以外の患者さんの診療にも今まで以上に取り組んでいきたいと思えます。2020年にコロナが始まってからコロナ以外の患者さんの受診数は一時大幅に減少しました。しかしながらその後、徐々に増加し、2022年にはほぼコロナ前の状況まで回復してきています。

超高齢化が進む中で私たちさいたま市民医療センターが地域において果たすべき役割は今後ますます大きくなっていきます。また、小児救急医療においても医療機関の集約化が進み当院への期待は大きくなっていきます。極力救急車を断らない、地域の先生方からの要請を断らない、という方針を再確認しあらたな気持ちでポストコロナの医療を頑張っていきたいと思えます。

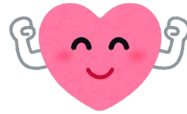
ポストコロナにおいては市民の皆さんへの情報発信も重視していきたいと思っています。コロナの蔓延時には、会合なども大幅に制限され、市民公開講座など地域の皆さんへの発信の機会が制限されました。昨年は市民公開講座をWeb開催することができましたが、やはり皆さんと顔を合わせての活動に勝るものはありません。そこで6月10日にハートの会、7月8日には市民公開講座を皆さんにさいたま市民医療センターへお越しいただいて開催致しました。また、今後も様々な講習会を開催する予定ですので、市民の皆様にはふるってご参加いただければ幸いです。

社会医療法人  
さいたま市民医療センター

〒331-0054  
さいたま市西区島根299-1  
TEL 048(626)0011  
FAX 048(799)5146  
Web: [https://  
www.scmc.or.jp/](https://www.scmc.or.jp/)

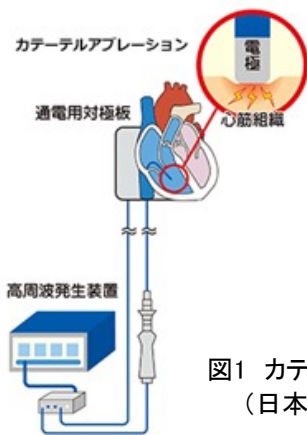
# カテーテルアブレーション始まります

## Radiofrequency catheter ablation



本年6月より、当院におきまして、不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を開始することになりました。不整脈分野におきましても、地域の皆様に役に立つ医療を提供できるよう努力する所存です。

### 《カテーテルアブレーション治療》



カテーテルアブレーション治療は、カテーテルを介して治療標的となる心筋組織に体外からエネルギーを加え、焼灼する治療法です。1982年に房室接合部に対する直流通電によるブロック作成に始まり、現在では、発作性上室頻拍、心室期外収縮・心室頻拍、心房細動・粗動と広く適応されています。治療成績も向上し、将来的に心不全や脳梗塞の予防につながっています。



図1 カテーテルアブレーション模式図  
(日本不整脈心電学会ホームページより引用)

### 《三次元マッピングシステム》

三次元マッピングシステムが開発され、心臓の電気現象と構造情報（CT・超音波・MRI・X線画像）が融合した立体画像の中で、カテーテルを可視化した状態で治療が行えるようになりました。

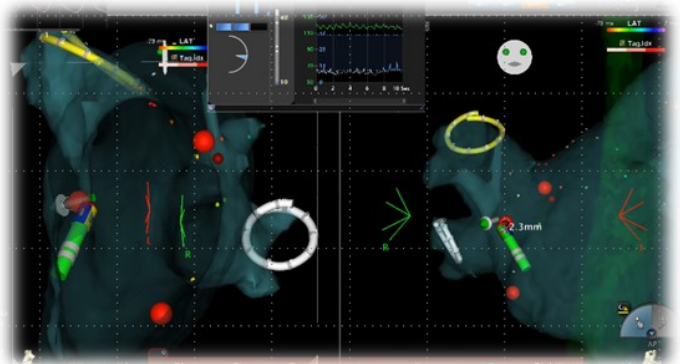
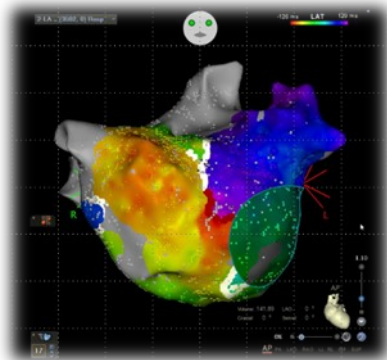


図2 三次元マッピングシステムを用いた頻拍回路の同定・カテーテルを可視化した焼灼

### 《心房細動へのアブレーション治療》

症候性の発作性および持続性心房細動に対して、抗不整脈薬の使用を経ずに第一選択治療としてカテーテルアブレーションを選択することの有効性も示されてきました。特に心不全を伴う心房細動では、有意な予後改善効果が確認されています。心原性脳塞栓の予防にもつながります。

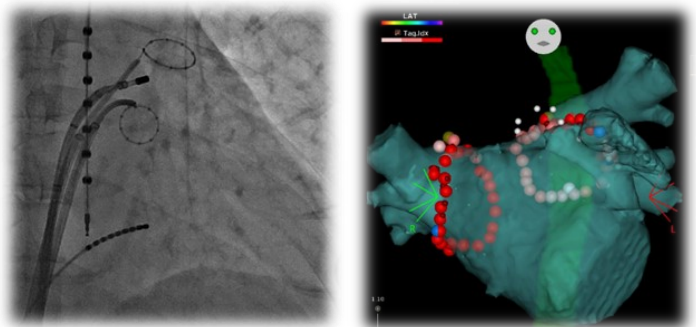
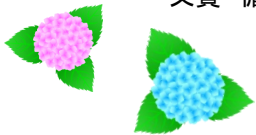


図3: 心房細動に対する両側拡大肺静脈隔離

## 《最後に》

開院から現在に至るまで、当院循環器内科では、虚血性心疾患、心不全、下肢血管治療、デバイス治療を提供させていただいておりました。今年からは、不整脈カテーテルアブレーション治療につきましても、地域の皆様に充実した医療を提供できるように努力して参ります。今年4月からメンバーも新しく増えました。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

文責 循環器内科 原口 裕美子



# 私たちのチームメイト

## 株式会社ソラスト



いつも病院を支えてくれている委託業者さんをご紹介します。第3回目は『株式会社ソラスト』さんです。院内の医薬品や消耗品等の物流管理を行っていただき、私たちの業務に支障がないようにいつも支えてくれています。



私たちSPDは院内の診療に関わる医療材料・医薬品、消耗品の物流管理業務を行っております。また、物品に関する購入費削減の提案などを職員様の協力のもと行っております。

SPDの活動は患者様とは直接関わることはございませんが、診療にご使用いただく物品を安定的に供給すべく在庫管理や院内配送を通して日々医療に携わっています。コロナ禍においては感染防護物品の物品調達が困難になってしまうことが何度もあり、診療へのご迷惑をかけてしまうことがございましたが、医師・看護師・職員の皆様のご理解をいただき使用数の制限や支援品を使用し乗り越えていく

ことができました。

ソラストの企業理念である『私たちは、人とテクノロジーの融合により「安心して暮らせる地域社会」を支え続けます。』は地域医療にかかわるすべての人の元気と笑顔を支える事を宣言しています。

